

事業実施内容①【遠隔でのやりとりを含めた児童生徒の実態把握の在り方の研究】

オンライン面談に関する保護者・担任へのアンケート調査の実施と分析

— 年度初めの面談を対象に —

筑波大学附属大塚特別支援学校

1. 問題と目的

本校では新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、昨年度から家庭と連携しオンラインを活用した学習活動等を行っている。動画配信やビデオ会議システムを活用した双方向の学習活動など多岐に渡る。その一つとして、オンラインでの面談（以下、「オンライン面談」とする）を実施することにより、個別の教育支援計画等の作成や家庭との支援方針の共有を図ってきた。また登校開始以降も、対面とオンラインの面談を使い分けながら保護者と担任が柔軟な形で連携している。オンライン面談実施後に担任間で振り返り、改善点を改めたり効果的だった点については継続したりしながら、より良い面談に繋げている一方で、全校として具体的に振り返り、評価改善を行う点はまだまだ多いと思われる。またそのような研究は少なく、情勢を踏まえてもそのニーズは高いと考える。

そこで本研究では、本校のオンライン面談について保護者と担任を対象としたアンケート調査を通して、遠隔でのやりとりを活用した幼児児童生徒の実態把握等の在り方について検討し、その示唆を得ることを目的とする。

2. 方法（2021年4月期の面談を対象に下記の方法で実施した）

(1) アンケート調査の対象者

①オンライン面談を実施した保護者と担任（それぞれ任意とし、協力の有無にかかわらず不利益を被ることは一切ないことを説明した）

(2) アンケート用紙の内容

保護者と担任には比較検討を行う目的で同じ質問項目とし、下記の観点でアンケート用紙（A4/1枚）を作成した。アンケート用紙の構成は下記の①②の通りである。

①大きく「オンライン」「面談」「全体的観点」の3観点から質問項目を設定し、各項目に対して5件法による評価とした。

②自由記述（任意）

(3) 分析方法

保護者と担任ごとに集計し、各項目を%で算出した。

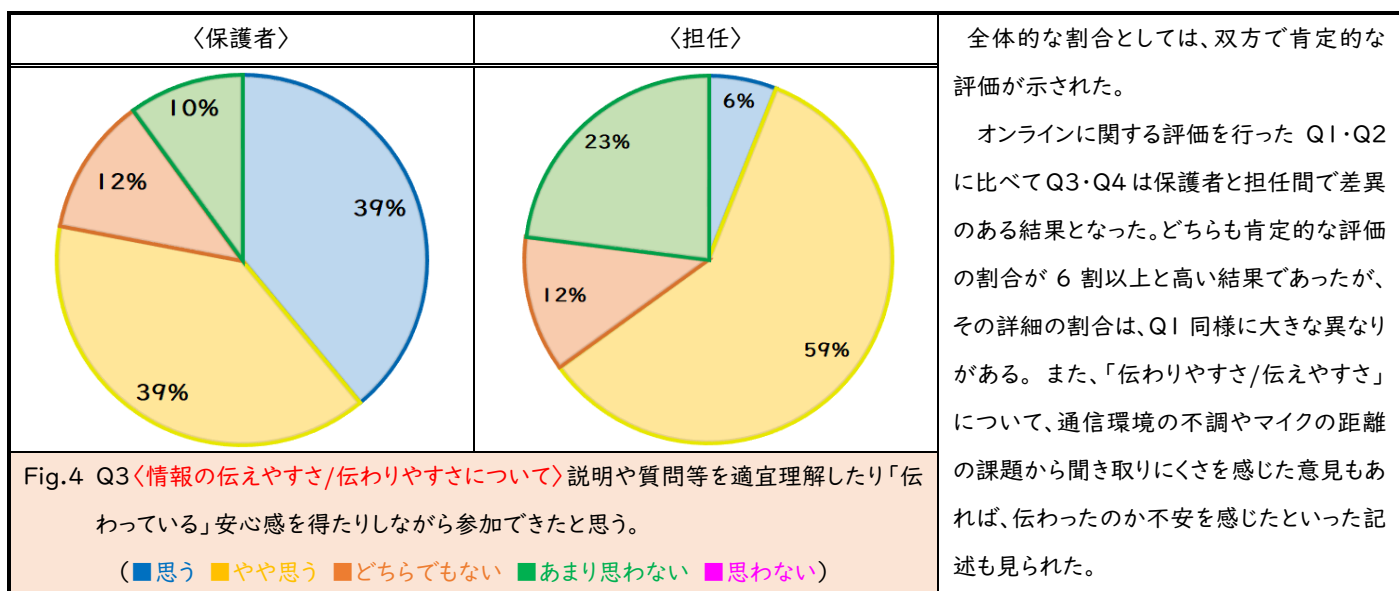
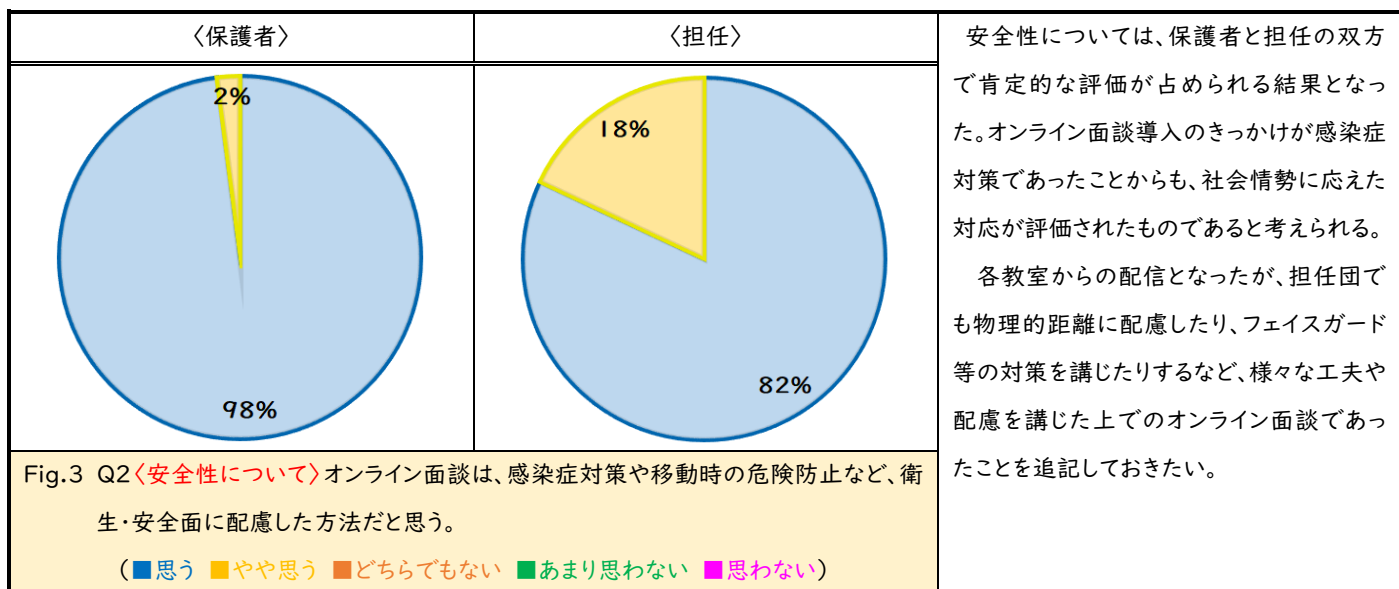
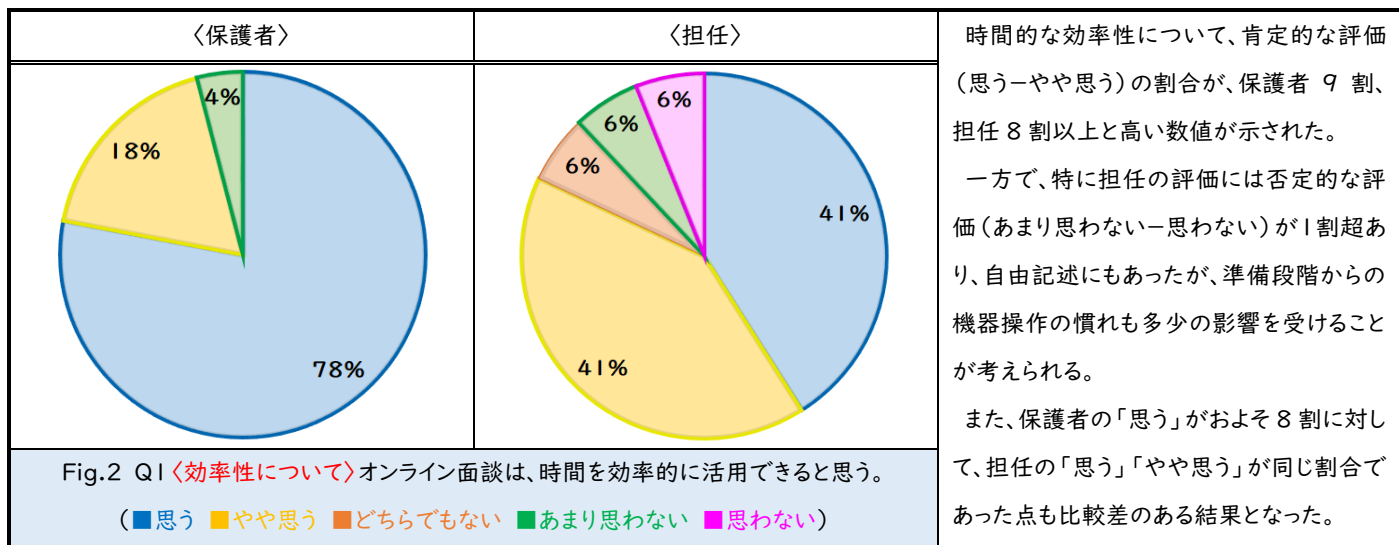


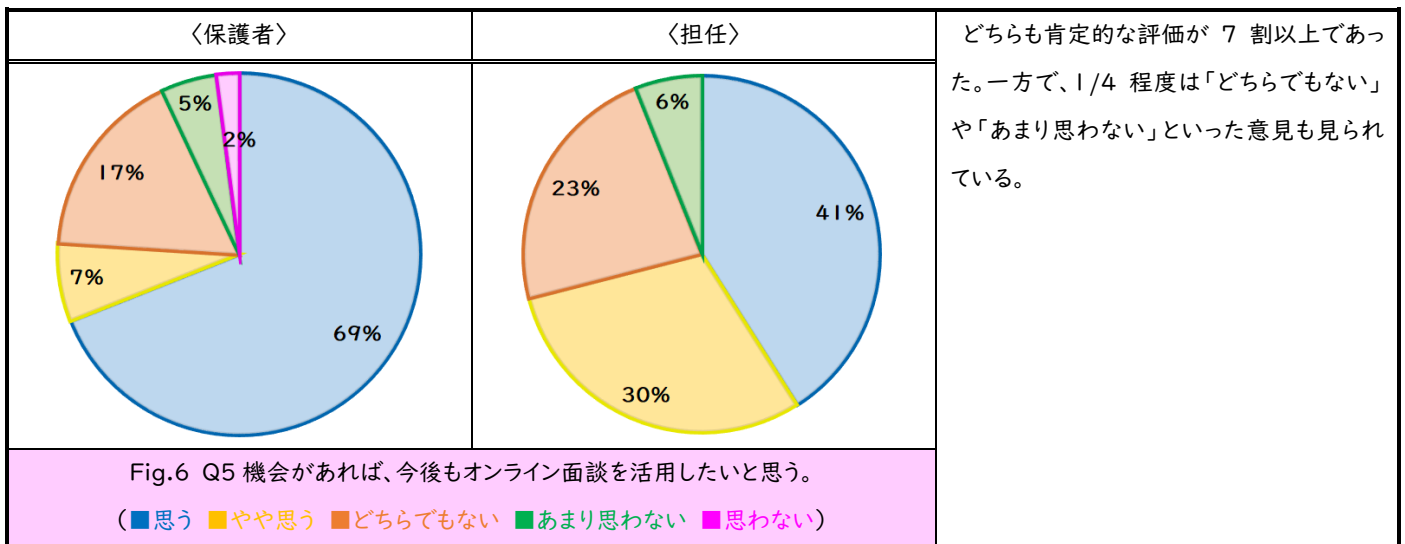
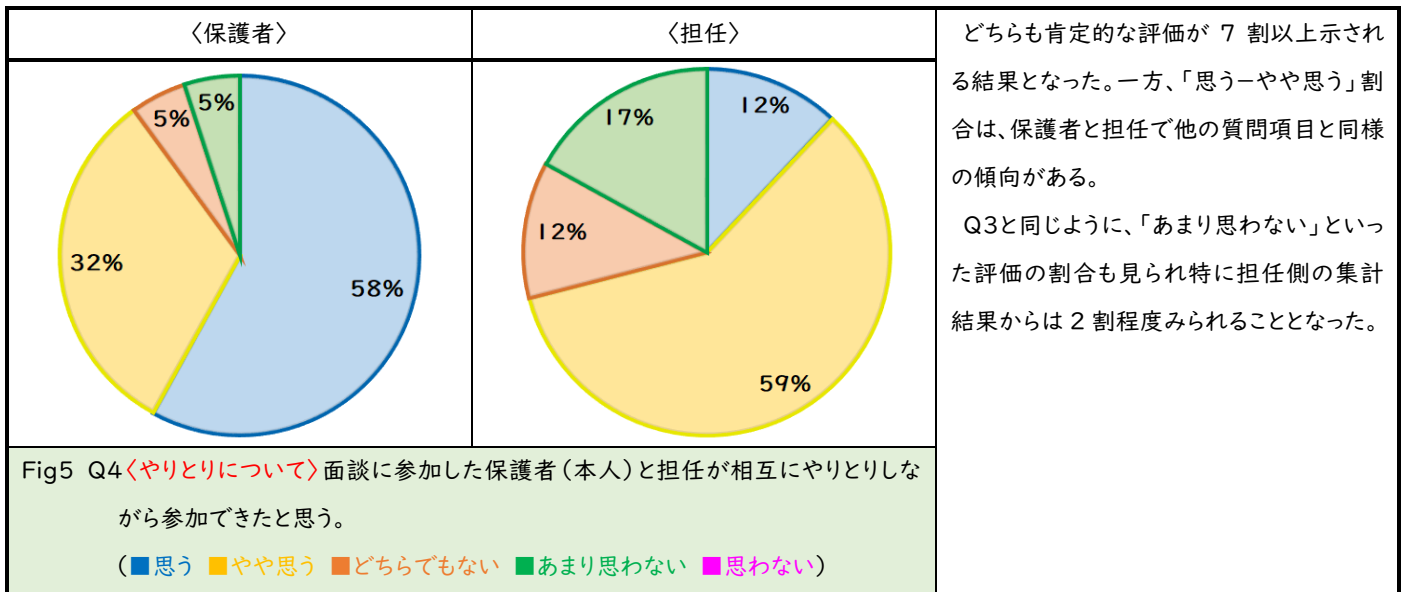
主として「オンライン」に関すること	Q1.〈効率性について〉 オンライン面談は、時間を効率的に活用できると 思う。	5 思	4 やや思	3 どちらでもない	2 あまり思はない	1 思はない
	Q2.〈安全性について〉 オンライン面談は、感染症対策や移動時の危険防 止など、衛生・安全面に配慮した方法だと思 う。	5 思	4 やや思	3 どちらでもない	2 あまり思はない	1 思はない
主として「面談」に関すること	Q3.〈情報の伝えやすさ/伝わりやすさについて〉 説明や質問等を適宜理解したり「伝わっている」 安心感を得たりしながら参加できたと思 う。	5 思	4 やや思	3 どちらでもない	2 あまり思はない	1 思はない
	Q4.〈やりとりについて〉 面談に参加した保護者（本人）と担任が相互に やりとりしながら参加できたと思 う。	5 思	4 やや思	3 どちらでもない	2 あまり思はない	1 思はない
全体	Q5.機会があれば、今後もオンライン面談を活用 したいと思 う。	5 思	4 やや思	3 どちらでもない	2 あまり思はない	1 思はない

Fig1.アンケート用紙(左・用紙全体、右・質問項目を拡大したもの)

3. 結果

(1)回収枚数「保護者・41枚」「担任・17枚」を対象に、各質問項目の結果(%)を下図(Fig.2~6)に示す。





4. 考察

1. 選択肢の一つとしての「オンライン面談」の活用

今回のアンケート調査では、どの項目に対しても保護者から高い評価が得られた。自由記述からも、オンラインの利便性を感じる機会となったこと、効率面・安全面においてオンラインの活用は今後も検討したいといった記述が見られた。オンラインの活用は社会情勢に対応した一つの方法であり、今回の調査からも、今後も選択肢の一つとして、保護者-担任双方で柔軟に利用を検討出来るようにすることが大切であると思われる。

2. 保護者・担任お互いに「思い」があることを知っておくこと

アンケート調査の結果からもオンライン面談は実態把握等を進める上で有効なツールであることが示されている。一方で、今回の調査を通して、担任がオンライン面談に対して感じる思い(難しさや悩みなど)も十分にあることが考えられた。事前に準備し面談に臨む中で「当初予定していたことを十分に伝えることができたのだろうか」といった自由記述も見られるなど、細部の分析を進めると担任が抱く思いや悩みなども見え隠れしていると感じた。また、保護者の自由記述からも「オンラインの良さ」と同じように、「対面でやりとりすることで感じる見えない雰囲気関係性を育む上では大切である」ということが述べられていた。対面とオンラインのどちらか一方ではなく、柔軟に組み合わせる中で、やりとりの表面だけでなく、その背景には子どもの学びを支えようとする思いがあることをお互いに理解することが、多様なやりとりを有意義なものにするためには重要であることが考えられた。

(文責:佐藤義竹)